

## シリーズ：介護事業所の舞台裏

## 第7回「わたしたちの理念・みんな元気になる」



ゆたかなビレッジ

株式会社ゆたかなビレッジとして経営・運営している各介護事業所には事業所理念というものがある。先頃、介護事業所を評価する機関等も「事業所理念をつくりなさい」とご指摘がある。それほど世間でも理念というものが重視される時代となった。わたしたち「ゆたかなビレッジ」にも理念がある。今年から新しくなり「ゆたかなビレッジでみんな元気になる」という事業理念をもってお仕事をさせていただいている。みんな元気になるとは？少し説明しますと、まず最初にご利用者さまの元気があります。これは主に身体機能・生活機能を回復、改善して何か一つでも以前の様にできるようになる。以前とは少し違うが自身の力で何とかなる。これを支援します。そしてご家族の介護負担・時間・費用を軽減します。さらに地域へ参加する施設として地域貢献を実施、そして関わる職員も皆様の満足により、仕事へのやりがいをもつことができ、継続して働くことができます。この、ご利用者様・ご家族様・地域・スタッフの元気がわたしたち「ゆたかなビレッジ」の運営理念となります。この理念の実現に向けて、各事業所では月間目標をつくり今年は行動して参ります。皆様に信頼していただけるために、またスタッフも信頼関係をつくり、安心していただける事業所づくりに皆で燃えています。応援よろしくお願いします。

## ぼやあ樹ニュース



## 小規模多機能ぼやあ樹 ポートサイド

## 「職員の宮部さん タウンニュースに掲載されました」

ボランティアサポーターとして幸ヶ谷小6年2組の児童と国道沿いに花壇を作った

宮部 敬太さん 六角橋在住 42歳 掲載号:2015年1月15日号  
花壇通じて地域貢献 ○…第1京浜と滝の川が交差する「たきのはし」にこのほど、0・6m×18mの花壇が完成した。昨年3月に開所した介護事業所の管理者。これまで雑草だらけだった場所を、総合の学習で交流のある幸ヶ谷小6年2組の子どもたちとパンジーや葉ぼたん、シクラメンなど、7種300株で彩った。「花に水やりをしていると、地域の方から温かい声をかけてもらえるようになった」と微笑む。○…南区生まれ、幼少時代は都内で過ごした。金沢区の小学校では、リーダー的な存在で遊ばわる一方、授業やアニメの影響から、牧場主になるのを夢見る少年だった。中学時代はサッカーに熱中し、市選抜のキーパーとして活躍。友人に誘われ、実業団のユースチームにも所属した。○…夢を追うため、北海道に渡った。現地では浪人生活を送り、酪農学園大学に進学。サッカー部で汗を流しながら、家畜人工授精師の免許を取得。卒業後は、約1年間カナダで見聞を広めた。「とにかくスケールが大きい。14時間もトラクターに乗り続けたこともあった」と留学生生活を振り返る。しかし、酪農を知れば知るほど「一生の仕事にはならない」と思うようになり、帰国を決断。「人のためになることをしよう」。2年間のフリーター生活を経て、ヘルパーの専門学校へ。資格を取り札幌の病院で9年間働いた。○…先輩が横浜で独立するのを機に、2年前に故郷へ戻ってきた。現在は、マネージャーとして認知症の人向けなどにサービスを提供している。北海道ではゴルフに明け暮れたが、こちらでは道産子の妻との食べ歩きが趣味となった。「六角橋は美味しいお店が多くて、太るのが心配」と笑う。「みんな元気になる」がモットー。利用者だけでなくスタッフや地域、すべての人に元気になってもらいたいと願う。「花壇を通じて地域と触れ合う機会を増やしたい」。今後も地域の担い手として活動するつもりだ。横浜市神奈川区・小規模多機能ぼやあ樹ポートサイドにて



## ◆取材を受けての本人の感想◆

取材時の写真撮影がびっくりしました。モデルになった気分がとても恥ずかしく、またどんなポーズが良いか悩みました。笑  
この取材を受けて、花壇の手入れをしていますと、知らない方が声をかけてくださることもあります。先日「花を愛する人はいい人だ」と励ましてくださる方もいて、本当に元気になりました。皆さん是非花壇を見てください。待ってます。